

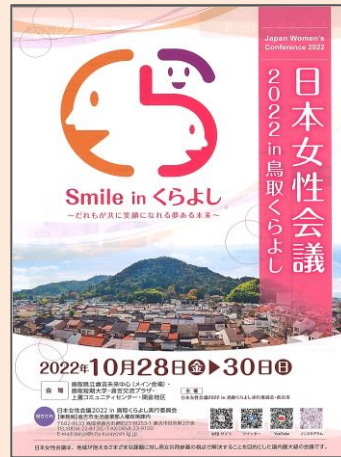


日本女性会議

2022 in 鳥取くらし

Smile in くらし

～だれもが共に笑顔になれる夢ある未来～



日 ち：2022年 10月 28日(金)～30日(日)

会 場：鳥取県立倉吉未来中心(メイン会場)・鳥取短期大学・

倉吉交流プラザ・上灘コミュニティセンター・関金地区

問合せ先：日本女性会議 2022 in 鳥取くらし実行委員会

事務局：倉吉市生活産業部人権政策課内 〒682-8633 倉吉市堺町2丁目 253-1 倉吉市役所第2庁舎

TEL:0858-22-8130/FAX:0858-23-9100

今年度は米子市開催です！

部落解放研究第55回全国集会

日 ち：11月 15日(火)～16日(水)

場 所：鳥取県米子市 鳥取県立米子市産業体育館 メインアリーナ ほか

分科会会場：①④⑤ 米子コンベンションセンター (BIGSHIP)

② 米子市文化ホール ③ 米子市公会堂

※ 参加希望の方は、はばたき人権文化センターまでお問い合わせください。

問い合わせ先：はばたき人権文化センター TEL:22-0232

《 10月の予定 》

●にこにこサロン：6日(木)・20日(木) 10:30～

●子ども料理教室：15日(土) 11:00～

●寄せ植え教室：24日(月)～28日(金)

※新型コロナウイルス感染症感染拡大状況により行事を延期又は中止することがあります。



生活で困っていることはありませんか？

家族のこと・お金のこと・就職のこと・将来への不安など、どんなことでもどうぞ悩んでいることがあれば1人で抱えこまずにご相談ください。相談された内容は秘密厳守いたします。はばたき人権文化センターまでご相談ください。



差別落書きや差別発言などに遭遇した場合は、倉吉市人権政策課、又は、最寄りの人権文化センターまでご相談ください。

倉吉市生活産業部人権政策課 TEL0858-22-8130

はばたき人権文化センター TEL0858-22-0232

はばたき人権文化センターだより

はばたき



発行:はばたき人権文化センター
住所:〒682-0872
倉吉市福吉町2丁目 1514-7
電話:0858-22-0232(FAX兼)
E-Mail:habataki@ncn-k.net

10月号 NO.418 (2022年10月1日発行)

すべての人が快適で安心して生活できる豊かな社会の実現を！

9月は週末の度に、巨大化した台風が日本列島に多大な被害や爪痕を残しました。毎年このような台風被害に対して不安や心配、恐怖を感じながら生活しなくてはならないのでしょうか。

地球は今、さまざまな環境問題を抱えています。地球温暖化による気温上昇。南極や北極の氷が溶けて海面が上昇し、島しょ国では、領土が水没の危機にさらされています。気候変動が、洪水・豪雪・干ばつ・山火事・飢餓などを引き起こし、人びとの生活を脅かしています。また、環境破壊に拍車をかけたと言っても過言ではない「戦争」が起き、安全な食料や水の供給ができなかったり、健康で安全に安心して暮らすことのできる環境が失われつつあります。

そんな危機から脱し、地球の環境を壊さず、資源も使いすぎず、未来の世代も美しい地球で平和に豊かに、ずっと生活を続けていける社会(サステナブルな社会)を実現するために、世界中の人々が共に立ち上がり、力を合わせて問題を解決していく『SDGs(17の持続可能な開発目標)』が誕生しました。

今後、新型コロナウイルスが出現したように、次々と新しい病も襲ってくることでしょう。環境破壊等を少しでも抑え、将来、次世代の負担を軽減するためにも、家族や地域で一人ひとりができること考え、心がけ、取り組んでいきましょう。

子どもたちの未来のために、今こそ、みんなでアクションを起こしましょう！



●限りある資源を守るため、美しい生活環境で暮らすため、私たちが一人ひとりにできることは・・・

たとえば・・・

- ◇節水、節電などの省エネルギー対策に努めましょう。 ◇ゴミや汚水を減らしましょう。
- ◇買い物するときに必要か不必要かを考えて購入しましょう。
- また、廃棄するときのことを考えて購入しましょう。
- ◇ゴミは、分別して捨てましょう。特に、プラスチックごみは減量しましょう。

●私たちが「使う責任、捨てる責任」を果たす努力をしていくことが、企業の取り組みを推進し、加速する原動力になり、「作る責任」を果たしてもらうことにつながっていきます。

たとえば・・・

- ◇照明をLEDに替える。 ◇地産地消商品を積極的に購入する。
- ◇歩いての移動。自転車での移動。公共交通機関を使う。
- ◇洗剤など植物由来の原料を使う。(CO2排出を低減・ボトルは100%リサイクルPETを使用)



《 9月こんなことしました 》

●明倫小学校地区学習会が始まりました。

お年寄りへプレゼントをするプラバンを使ったキーホルダーや、焼きもの教室を行い、「仲間づくり」から2学期をスタートさせました。



●作品づくり：11日(日)

手縫いで、手ぬぐいを使ったリバーシブルのトートバッグを作りました。



●にこにこサロン：1日(木)・15日(木)

地域包括さんの健康チェックで、片足立ち・握力・体重・身長・歩行速度の測定し、体のちょっとした衰えにいち早く気づくことが大切だと教えていただきました。

●こども料理教室：17日(土)

コロナウイルス感染症感染拡大予防ため中止が続き、久しぶりの開催。子どもたちのリクエストでウインナーチャーハンと中華スープを作りました。



●はばたきよろず会議：20日(火)

関係機関と連携して、地域の困りごと等の解決に向けて話し合いました。

※気になることや心配なことがあれば、ひとりで悩まないで相談してください。



10月おすすめの絵本



「ほっきょくがとけちゃう！」

作：イーサン・キム・マツダ マイケル・マツダ

絵：ヴァネッサ・ラム 出版社：ポプラ社

ある日、北極にあるサンタのおもちゃ工場が沈みそうになります。困ったサンタクロースは、北極の氷が溶けた原因をさがしにトナカイのそりに乗って出掛けます。助けを求めてアメリカにやってきて、たまたま、小学校3年生イーサンのお家に飛び込み、学校で氷が溶けてしまう窮状を話し…。

アメリカの8歳の男の子が「地球温暖化」について考えたくて作った絵本です。

「わたしがぼくがちきゅうのためにできる10のこと」

作：ネラニー・ウォルシュ 訳：山本 和子

出版社：チャイルド本社

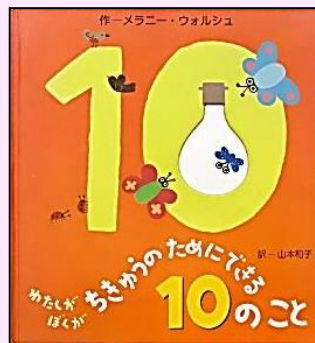
変形ページや穴あきのしかけがあり、身近な環境問題を楽しく親子や友だちと話し合いながら学べる絵本です。

毎日の生活の中で、気をつければできる私たちのエコライフ。

部屋を出るときは、電気を消す。歯を磨くときは、水を止めるなど、

幼い子どもたちにもできること10のことが上げてあります。

エコを実践すると地球が喜びます。



【 刑務所の変化 】 < 塙の中と外を考える >

近年、TV のドキュメンタリーで、刑務所内の暮らしが紹介されたり、刑務所の受刑者の高齢化による要介護者の増加の問題が取り上げられていたりしています。また、一度、出所することができても、仕事が見つからず、地域社会で受け入れられることなく孤立して困窮し、再び、罪を犯して刑務所に舞い戻るといった報道がされています。

近年の社会の変化は、受刑者の人たちにとっては、刑務所を出ると、きっと「浦島太郎」状態なのだろうと思います。今の社会は、5年後、10年後と言わず、日々、進化して、自分が刑務所に入る前と後では、社会の様相が全く異なっているのですから。

インターネット社会、IT 機器の普及とAI(人工知能)を駆使していく社会変化に戸惑い、ついて行くことのできない生活があります。かくいう私も必死で遅れながらくいついていきます。

2006(平成18)年、100年ぶりに「監獄法」という法律が、「**刑事収容施設及び被収容者等の処遇に関する法律**」という長い名称の法律に変わりました。この法律は、**通称「刑事収容施設法」**と言われたり、「新法」と呼ばれたりしています。

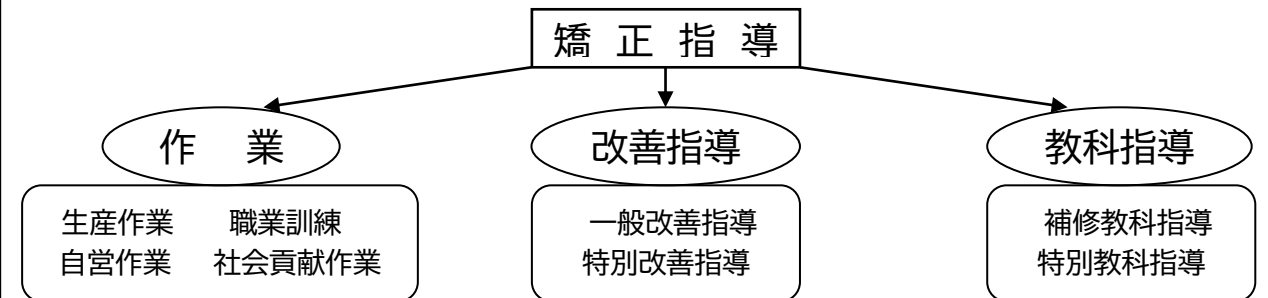
●刑事収容施設法のできる前

刑務所の使命：
・受刑者の収容
・刑務所の規律・秩序を平穩に保つ

できた後

・今までの使命に加え、もっとも重要なものとして再犯防止
・矯正教育は受刑者の義務
矯正処遇

●矯正処遇：その者の資質及び環境に応じ、その自覚に訴え、改善更生の意欲の喚起と社会生活への適応能力の育成を図ることを目的として行うもの



※特別改善指導は、改善更生や社会復帰に支障をきたす受刑者個別の事情を改善するために
行うもの

- ①薬物依存離脱指導 ②暴力団離脱指導 ③性犯罪再犯防止指導
④被害者の視点を取り入れた教育 ⑤交通安全指導 ⑥就労支援指導 があります。

刑務所といった施設が、社会復帰促進センターとして建設されたところがあります。中国地方では、2007年山口県に「美祢社会復帰促進センター」が、2008年島根県に「島根あさひ社会復帰促進センター」が官民協働の刑務所として開設され、犯罪傾向の進んでいない受刑者を対象に、社会に迎えらる人材の再生を目指して、更生プログラムが実施されています。どちらの施設も、敷地内に保育園やこども園が開園しており、あさひ社会復帰促進センターには盲導犬訓練センターもあります。どちらの施設も地域との共生を目指して取り組まれています。**塙の中から社会へ出てきた人たちを温かく受け入れ、お互いに地域の中で助け合い支え合っていく関係をつくるのが再犯防止にとって、最も重要なことです。**